

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

主体的・対話的で深い学びの実現と確かな学力を育成する

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 原真由美	委員 校長:東正朗 教務主任:津川美香 人権教育主事:江川裕子 特別支援教育コーディネーター:米田幸子	教頭: 名目良律子
-----------------	--------------------------------------------------------------	-----------

校長

東正朗

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観, 校内研修での報告等, 様々な機会を捉え, 取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み, 学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的基本的な知識を得ようと, こつこつと努力することができる。 ●「書く」技能の個人差が大きく, 特に視写に時間のかかる児童がいる。 ●文章に書かれている内容を正しく読み取れない児童がいる。	・当該学年までの基礎的基本的な知識が確実に身につけている。 ・語句をまとまりでとらえ, 速く正確に文章を書き写すことができる。 ・問題文の内容を正しく読み取ることができる。	・チャレンジタイム(スキル学習)の中で, 当該学年や前学年までの学習をする時間を設ける。 ・作文読本や新聞等を活用し, 定期的に視写させる。 ・教材文や問題文に線を引きながら読む習慣をつけるための授業改善を行う。 ・ICTを活用した教育を推進し, 児童にとってわかりやすい授業づくりを進める。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の思いを表現することに前向きである。 ●語彙力, 文章構成力が弱く, 自分の伝えたいことを十分に伝えられない。 ●他者の意見を取り入れて話し合う力が十分とは言えない。	・どのような場面でも, 他者の意見を取り入れながら対話的に考え, 自分の意見をすすんで話すことができる。 ・発達段階にふさわしい言葉を知り, 思考・判断・表現する際に, 知っている言葉を適切に使うことができる。 ・自分の思いや考え, 感想等を正しい文章で豊かに表現できる。	・対話的な学習を各単元の中に計画的に設定した授業づくりを行う。チャレンジタイム(スキル学習)の中で, 他者との対話の時間を作り, 自分の考えを伝える場を設定する。 ・子ども新聞の活用, 「言葉の宝箱」で短文作り, 作文・俳句作り・日記指導, 国語辞典を使うなどの学習機会に積極的に活用する。 ・授業の振り返りや作文・日記指導の際に「書く→推敲する」習慣をつけさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題には真面目に取り組む, 最後までやりきろうとする。 ○知的好奇心が旺盛な一面がある。 ●「なぜ」「どうして」「もっと知りたい」などの気持ちを持って表現できず, 学習態度が受け身である。 ●集中が続かず, 教師や友達の話を最後まで主体的に聞くことの難しい児童がいる。	・見通しをもって意欲的に学習に向かい, 探究的な姿勢で課題を解決しようとする。 ・教師や友達の話を, 自分の考えや思い等と比べながらよく考えて聞くことができる。	・児童の学習意欲や探究心が高まる授業について研究を深める。 ・学習課題の提示と単元のゴールを明確にし, 振り返りと見通しを一体化させた授業を行う。 ・児童が考えながら集中して話を聞くことができるようルールを決め, 指導者自身も話の伝え方を工夫する。 ・激しく変化する社会を生き抜くことのできる資質能力を育成するため, ICTの効果的な活用に取り組む。 ・体験学習を取り入れる事で, 課題を見つけ設定したり, 見通しをもって解決するための方策を考えたり, 意欲的に学びの探求を楽しむ授業の開発に取り組む。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

